



特集 伝承★手作り★鉢植え笹竹

根白石
民俗七夕まつり



終戦後の 仙台七夕と 根白石七夕

伊達政宗の時代、江戸の七夕を取り入れたのが始まり。江戸で廃れても、宮城には残りました。

【仙台七夕】

1928(昭和3)年、東北博覧会が行われた年に七夕コンクールが行われて飾りは豪華に。戦争で一時的に中断されつつも、昭和天皇巡幸の際に5000本が飾られ豪華な仙台七夕が復興します。



街並みと家々に飾る
素朴な風物詩としての七夕
仙台七夕の観光化や
モータリゼーションで一時廃れる

商店街振興から観光七夕へ

- 01 1958(昭和33)年、中央通りの七夕まつり
- 02 1968(昭和43)年の中央通り七夕。10年前よりも豪華になっている
- 03 同じく、特選を受賞した七夕飾り
(いずれも仙台市戦災復興記念館提供)

【根白石七夕】

根白石七夕は子どもたちのあこがれ、各家庭の技術伝承によって支えられ、戦後も盛んに作られました。

根白石出身の故庄司健治氏の写真コレクションでは、昭和30年代の根白石七夕の様子を見ることができます。

中心部に負けない大きな飾りが商店街を彩り、リアカーに見物客を載せて案内する様子、子ども会の子も達と飾りなども見られます。

商店街だけでなく家々でも飾られた民俗七夕は、天皇御来仙以降、観光として栄えた仙台七夕を見物に行くようになったこと、高度成長期で街を車が走るようになったことなどで一時廃れてしまいました。

- 01 1955(昭和30)年頃、リアカーに乗り七夕見物
- 02 1960(昭和35~6)年頃の七夕。「仲町子供会」という文字が書かれた垂れ幕が写る
- 03 1955年(昭和30)年頃の根白石七夕
(いずれも故庄司健治氏コレクションより)

昭和50年代に復活、ミニ七夕へ繋ぐ 根白石民俗七夕

年中行事としての民俗七夕を繋ぐため、老人会で復活。「鉢植え七夕」が誕生し、「ミニ七夕」として仙台市中心部でも親しまれました。



【長生会】

地元高齢者が集う「長生会」が、各家庭で受け継いできた技術を持ち寄り、根白石七夕を復活させました。

「昔風と現代風を合わせて」とあるように、伝統的な飾りを手作りし、「鉢植え七夕」も考案。時代に合わせた飾りも組み合わせられた新たな根白石七夕が誕生しました。



民俗七夕を復活させる

- 01 伝統的なくす玉ご作り
- 02 「このミニ七夕は鉢植えの生きた竹に飾りました」。鉢植え七夕はこの時誕生した
- 03 公民館で行われた七夕飾り作り
- 04 中心部に飾られた七夕
(いずれも故庄司健治氏コレクションより)



【鉢植え七夕で繋ぐ】

鉢植えミニサイズの七夕は、車が走る道にも安全に設置でき、雨が降った場合に簡単に移動できるというアイデアでした。また、生きた笹竹は開催中枯れることなく、青々と美しい姿を保ちます。

「仙台七夕協賛会」加盟後に数々の受賞も果たし、仙台駅ペDESTリアンデッキに飾られたことをきっかけに新たな七夕スタイルとして知られるようになりました。

長生会、商工会、商店会による 観光七夕と住民による七夕、 100本を超える七夕が街を彩る

- 01 市町村合併で仙台市となり、仙台七夕協賛会に参加。多くの受賞歴がある
- 02 仙台駅ペDESTリアンデッキ飾られ、観光客を楽しませた
- 03 商店や家々の軒先に飾られる鉢植え七夕





01 02
03
04 05

- 01 小さな子も手が届く七夕飾り
- 02 多様な世代の地域住民が手作りする
- 03 地域芸能や遊びのコーナー、おふるまいなど、住民によるもてなしも
- 04 根白石七夕復活以来、45年以上の作り手・沼田さんの作品。竹のしなりが美しくなる重さに仕上げ、細やかな手仕事が見応えある
- 05 車いすやベビーカーなどでもゆっくり楽しめて、飾りと並んで記念撮影ができることも評判

作る、触れあう、暮らしに溶け込む
年中行事としての素朴な七夕



豊作、平和、家族の健康…作り手の願い
飾り、短冊に込める

- 01 仙台伝統七つ飾りを飾った鉢植え七夕が通りに並べられる
- 02 紙衣(かみごろも)／病気や災難の厄除け、裁縫の上達を願う
- 03 巾着(きんちやく)／商売繁盛や金銭に不自由しないことを願い、節約・貯蓄の心養う
- 04 短冊(たんざく)／細長い紙片に夢や目標を書き、成就を願う
- 05 根白石七夕は稲わらで作る藁細工を飾るのが特徴



観光、年中行事として

根白石七夕を作る人々

街並みばかりでなく、家々にも飾られる根白石七夕。昔の風情を引き継ぐのが特徴と言えます。現在の作り手の皆さんにお話を伺いました。

【泉西部地区老人クラブ連合会】

根白石七夕を復活させた「長生会」も所属する「泉西部地区老人クラブ連合会」。泉区西部地区に暮らす250名以上が様々な活動をしていて、七夕飾り作りは役員や会員の有志が集って行われます。「毎年2本、まつり当日はメイン通りに飾られるので頑張って作っています。会員同士の交流にも役立ちます」。

- 01 01 地域に愛着を持つシニアの皆さん
- 02 02 七夕飾り作りは、交流の場にもなる



【事務局・高長商店】

高長商店は明治時代から続く老舗。根白石七夕復活時から事務局を務めてきました。「商店や団体だけでなく、七夕の半分は住民が作っていて、3歳から90歳、皆が参加する。素朴な飾りをのんびりと見物できるまつりです」。

- 01 02 01 事務局自ら飾りを作り、伝統を伝える役割も果たす
- 02 街の中心に建つ高長商店、店主・高橋長也さん

【住民】

個人、学校、子ども会、児童センターなど、住民参加の飾りがたくさん飾られます。作り手の一人、平柳子さんは「退職したらぜひ作りたと思っていました。15年ほど前に願いが叶い、孫や娘と一緒に楽しむことができました」。手の込んだ飾りは数ヶ月かけて作られるものもあり、小さな飾りでも見応えがあります。



- 01 02 01 本格的な七夕飾りを制作。地元新聞でも紹介された平柳子さん
- 02 折り鶴ひとつひとつの折り目、飾り全体の構成や彩りなど際立つ美しさ

観光協会企画

2024年 根白石民俗七夕まつり

8月6・7・8日(火・水・木)



七夕飾りづくり
講習会・展示



～参加型イベント企画中です～

お友だちや
ご家族と

ゆかた撮影会



根白石七夕にご参加ください!

観光協会では根白石七夕に参加頂けるプログラムを企画します。詳しくは公式HPやSNSで6月中旬以降に告知いたします。



泉かむりの里 公式HP

七夕馬っこ ~田の神様は馬にのってござる~



- 01 03 01 家にいる馬の数作られたという「七夕馬っこ」
- 02 02 根白石七夕復活時、伝統的な馬っこを作る「長生会」の会員
- 03 03 鉢植え七夕に飾られる七夕馬っこ、藁草履、わらじ



現在の作り手
前川 美穂さん

田の神様である「七夕さま」が馬に乗ってくるため、馬の形を作り、屋根にのせるという習わしがありました。現在は形を変え七夕飾りのひとつとなっています。これを受け継ぐ前川美穂さんは米農家。「うちでは天日干ししますので、稲わらが残ります。それを活用する意味でも藁細工に興味を持っています」。



- 01 02 01 藁を使って縄を作る「縄ない」
- 02 02 なった縄を口や耳の部分に使う
- 03 04 03 「胸を張らせるとかっこいい」と前川さん
- 04 04 飾りは自由に。俵を背負わせ豊作祈願

ご縁で繋がる人情と、ゆたかさあふれる

根白石おもしろ市

仙台市後援  トラック市



2024年予定日 10:00~12:30 (7・8月のみ 9:00~12:00)

4月20日 / 5月18日 / 6月15日 / 7月20日 / 8月17日

9月21日 / 10月19日 / 11月16日 / 12月21日

会場：旧JA仙台根白石支店跡地(泉区根白石堂の沢) お問い合わせ：泉かむりの里観光協会(下記参照)



加工品

手仕事

農産物



2015年に始まって以来、徐々に来場者・出店数が増え、今は行列も見られるほどの賑わいとなっていてとても希望を頂いています。

より多くのお客様にご来場頂き、根白石の魅力を広くお伝えしていきたいと思っています。おふるまいや抽選会など、今年も喜んで頂けるおもてなしを企画いたしますのでぜひお越しください。

根白石おもしろ市実行委員会 会長
熊谷農園 熊谷 貴幸

◆ 泉かむりの里のブランド米 ◆
根白石おもしろ市でぜひお求め下さい!



泉水神米



根白石民俗七夕MAP



泉かむりの里エリア
～ 宮城県仙台市泉区西部地区 ～

根白石おもしろ市 会場

泉かむりの里観光協会 観光情報誌「いきなご縁」Vol.7 2024年春夏号 3月発行

泉かむりの里 公式HP ▶
<https://izumi-kamuri.jp/>



IZUMI KAMURI

泉かむりの里観光協会

泉かむりの里観光協会では、共に地域を盛り上げてくださる新規個人会員・法人会員を募集しております。詳細はお問い合わせください。

発行：泉かむりの里観光協会 宮城県仙台市泉区福岡字藤沢13 電話：022-379-3221